

平成28年度 第1回 新見市総合教育会議 議事録

1 日 時 平成29年3月16日(木)
午後1時30分開会 午後2時30分閉会

2 場 所 新見市役所 第5委員会室

3 出席構成員

市長	池田 一二三
教育委員長	小野 貴美江
教育委員長職務代理者	安達 友恆
教育委員	吉田 徹
教育委員	住本 克彦
教育長	中田 省吾

4 欠席者 なし

5 説明のために出席した職員

教育部長	安藤 暢重
企画政策課長	小林 保
教育総務課長	石橋 博
学校教育課長	村上 弘
生涯学習課長	福本 勇
教育総務課主幹	小川 泰典
企画政策課課長補佐	藤井 和昭

1 開 会

企画政策課長：平成28年度第1回新見市総合教育会議の開会を宣する。

2 市長挨拶

【市長】

昨年策定された「新見市教育大綱」に掲げられた基本理念である「ふるさとを愛し、未来を拓く、たくましい人づくり」を実現するため、教育に携わる人が連携して推進することが大切であり、本日は、皆様から本市の教育に関して忌憚のないご意見をいただきたいので、よろしくお願いしたい。

3 議 事

事務局より、新見市総合教育会議運営要綱第3条の規定により、市長に議事進行を求める。

(1) 「新見公立大学・短期大学と連携した教育によるまちづくり」について

【市長】

新見公立大学・短期大学では、「看護学部」を「健康科学部」に改称され、「地域を拓く健康科学」を体系的に研究、教育する特色ある大学の構築を目指している。こうした取り組みをまちづくりにどのように活かしていくのかについて、本日は皆様の意見を伺いたい。

まず、公立短大教授の住本委員から、大学の取り組みや今後の構想について説明をお願いしたい。

〔説明〕

住本委員から、新見公立大学・短期大学の取り組みや今後の構想について資料に基づき説明。

〔意見交換〕

【教育委員】

- 幼児教育学科の構想の中で、特別支援教育を含む発達障害児への対応
- ・支援があるが、専門知識を持った人が対応することが必要だと思う。
- それから、資格を持った人が市内にとどまって活躍できる職場づくり

も課題である。

【教育委員】

にいみ塩から子育て事業で新見の大学生にボランティアでお世話になったが、学生の質が高いと感じた。近年、大学生や教員が積極的に活動していると思う。高く評価している。

【教育委員】

地域福祉学科の構想の中で、防災士や行政書士、社労士等の資格取得を含む幅広い人材育成を目指すところがあるが、大学としての特色も出て、学生の確保にもつながると思うので、進めてほしい。

3つの学科全体で地域包括ケアを進めるとしているが、国が在宅医療を充実する方針を打ち出している中、医師会、行政、大学が連携してその受け皿について考えていきたい。

【教育委員】

現在の学生数と、4年制大学化（4大化）した場合の想定人数は。学生が増えることは、まちの活気や経済的にも良い影響がある。

〔住本委員〕現在、定員ベースで450名。4大化後は検討中。

【教育委員】

新見の学生は良い環境で勉強ができており、高い評価をいただいている。次の新生は地元からの進学も以前より増える見込みで、新見出身の学生が地元に残り、リーダーになれるような人材に教育していきたい。

【教育委員】

新見市・新見医師会では看護師の確保のために奨学金制度を設けているが、応募人数が定員に達していない。奨学金だけでなく、住宅を提供するなどプラスアルファの支援を考える必要があるのでは。

【教育委員】

学生は飲食店でのアルバイト、イベントなどでのボランティアなどで活躍してくれている。学び愛のまちプロジェクトでもお世話になっている。さらに多くの学生が参加して新見市を盛り上げてくれるような指導をお願いしたい。

【教育委員】

短期大学では2年間に実習したりして単位を取らないといけないが、4年制になればゆとりを持って地域に出ていただける時間もできると思

う。地域での学習ボランティアなどにも参加していただきたい。

【教育長】

幼児教育支援センター設置構想については、非常にありがたいと思う。また、高校と大学のつながりを持つことは重要で、住本委員が新見高校で生徒と話をされたということは、地元の子が大学に興味を持ってもらえるし、地元の大学への進学につながると思うので、良いことだと思う。

大佐で、夏休みに大学生が地域の子供たちへの学習支援をしていると伺った。こうした活動を活発にしていただければと思う。

【教育委員】

新見高校で「心の教育」と題して話をし、高校生と意見交換を行った。こうした機会が増やせればと考えている。

【事務局】

冬休み中に、市内5つの中学校で学習サポート事業を実施した。参加した大学生10人のうち7人が新見公立大学の学生であった。

【教育委員】

特別支援教育ができる資格を持っている人は少ないので、地元にそういった資格者の養成所や研修する場があれば有意義である。また、その事業の中で、幼小中と大学との連携ができれば良い。

【教育委員】

発達障害児の支援について、市が協定を結んでいる倉敷成人病センターには発達障害児の支援外来があるので、インターンシップなど連携を深め、学生に専門性の高い教育をすることができるのではないかと考えている。また、4大化した場合の専門教員として、ICT教育に関する専門教員に加え、特別支援教育に関する専門教員の確保をしたいと考えている。

【教育委員】

若い看護師は、スキルアップしたいと思っている人が多く、最先端の医療に触れる機会が多い都市部の大病院への就職を希望する人が多い。

新見の医療機関に勤めながら、定期的に都市部の病院等で胃カメラや心臓病リハビリなどの専門技術を取得させるなど、看護師プラスの専門性を持たせることができるよう、医療機関の運営に余裕を持たせる方策

を検討してはどうかと思う。

【教育委員】

にこたんを年間1万人の人が利用しているという話があったが、4支局にも子育て広場があるので、そこに学生に来てもらえば良いのではないかな。

【市長】

その外に何かあるか。

【構成員】

特に無しの声

【市長】

貴重なご意見をいただいた。今後、本日いただいたご意見を参考に、大学とも調整を進めながら教育行政を進めていきたい。

外に無ければ事務局へ会議の進行を戻す。

5 閉 会

企画政策課長：平成28年度第1回新見市総合教育会議の閉会を宣する。